最終発表

## マネジメントレポート

上流工程で何度も手戻りが発生しており，5月15日までEVが0の状態が続きました．手戻りの理由としては，システム案そのものが通らずに憲章と要件定義書の書きかえを何度も行ったためです．5月15日以降になってから同時並行的に作業が進み納期には間に合いましたが，ドキュメントの品質は低く，下流工程での見直し作業を増加させる要因となりました。またガントチャート・WBSの作成がきちんと行われておらず，スコープに漏れがあったり，計画時間が妥当ではなかったりしました．改善案としては、まずシステム案の考案の際にはシニアマネージャも含めてミーティングをきちんと行い，システムの概要が確定してから作業に入る。次に、WBSをきちんと作り，スコープに漏れがないようにする．また，WBSも他の書類と同様にシニアマネージャのレビューを受けることにより，品質を保つようにする。そしてガントチャートで日程計画を作成する際に成果物ごとにどの程度作業が必要なのか見積もって作成することにより，妥当性の高い日程計画を作成する．

下流工程では、PMの体調不良と上流工程のマネジメントの失敗により6月26日までに見直しと内部設計書に遅延が発生しました．それにより内部設計書とプログラムの作業時間が取れず，　プログラムの品質が低下する事態となりました。　改善案としては、まずリスク摘出をきちんと行い，さらにシニアとのミーティングによりリスク登録簿の完成度をあげます。次にリスク登録簿によって定義されていないリスクが発生した場合でも対応できるようにチームビルディングを行います。そしてリスク登録簿によって定義されていないリスクが発生した場合の対処をリスク計画書に記述します。

# QCD評価

## 品質

ｓ１

品質目標はシステムテストのうち八割の成功でした．結果としてテスト項目は八割以上を成功させたので品質目標はクリアしたといえます．

ｓ２

しかし，ユーザビリティの面では高品質だとは言えませんでした．というのも，本システムは農家の方を対象とするシステムなので，ほかのシステムより高齢者の方が使用する可能性が高いのですが，そういった部分に気を使ってはいませんでした．

ｓ３

なので，改善案として提示するのはアクセシビリティの向上です．アクセシビリティとは情報やサービス，ソフトウェアなどが，どの程度広汎な人に利用可能であるかをあらわす語で，特に高齢者や障害者などハンディを持つ人にとってどの程度利用しやすいかという意味で使われることが多いです．

向上のための方法としては，W3Cの提唱するwebコンテンツアクセシビリティガイドラインに則ったアクセシビリティチェックリストをテスト項目に加えるという改善を行います．

## コスト

ｓ1

コスト目標では下流工程の想定作業時間は280時間でした。実際に掛かった時間は213時間でした。想定時間内にプロジェクトを終えることができたので成功と言えます。

ｓ2

しかし、成果物ごとでは計画稼働時間が想定稼働時間の見積りと異なりました。原因としては、作業を引きついだ際に成果物ごとのコストの見積の見直しが甘かったためです。

ｓ3

改善案として見積り方法を組み合わせて見直しの精度を上げるということを提示します。類推見積りを基本にその他（パラメトリック見積り、ボトムアップ見積り、三点見積り）の見積り方法も使用します。

納期

ｓ１

納期は７月１７日で，実際に１７日に納品することに成功しました．

ｓ２

しかし，各種ドキュメント見直しと内部設計書は二週間の遅れが発生し，プログラムにしわ寄せが来ました．直接的な原因としてはPMの体調不良による作業の停滞ですが，より根本的な要因としては，そういったリスクが定義されていなかったことです．つまりはリスク洗い出しが不十分だったことが原因です．

ｓ３

なので，今後はより正確なリスク洗い出しを行います．

具体的な方法としては，リスク洗い出しのブレーンストーミングでやみくもにリスクを書き出すのをやめ，９つの知識エリアをフレームワークとして提示することにより網羅性を増したリスクマトリックスを作成します．

ｓ４

なお，途中遅れたにも関わらず最終的な納期に間に合った理由はプログラミングが想定より短時間で終わったからです．短期間で終わった要因は機システムの簡略化を行ったという点もありますが，より大きい要因はプログラマの技術が高かったことと，良質な参考資料の存在です．

ｓ５

参考資料はこちらです．こちらは古いバージョンですが，最新のPHP5.5に対応したものもあります．

まとめ

今回のプロジェクトは何とか成功に持っていくことができましたが，まだまだ多くの課題を残しています．しかし，この失敗経験とそれに対する改善が成長につながると思っています．また，プロジェクトを通してバージョン管理システムを使用したことはソフトウェア開発の世界で生きていくための糧の一つになりました．これからも精進していきます．以上で終了です